

頑張れ！福島県

～最も深刻な評価レベル7へ修正

国内観測史上最大の地震と大津波から、あっという間に一ヶ月が経過しました。4月11日午後2時46分、被災地では鎮魂と復興の願いを込めてお祈りが捧げられました。しかし、12日には、一向に収束しない東京電力の福島第1原子力発電所の事故で、原子力安全・保安院は、国際的な基準に基づく事故の評価を、最悪の「レベル7」に引き上げると発表しました。

福島原発事故がレベル7に引き上げられたこともあって、放射能物質の影響は長期間の累積、風向きによって広域化することを政府自身が認めたこととなります。食品流通業界も被災の地域が特定でき、一定期間内に収束する可能性のある場合は、特定の県の農産物の取扱停止をすればよかったです。ですが、広域・長期間となりますとそうはいかず、消費者の不安を除くような形で、市町村別の農産物（暫定規制値以下）を流通に乗せていくことが必要となってきます。我々農業界、食品事業者、資材流通業界が一致団結して被災地の生産者を支援していくことが重要となります。

米作付制限解かれる

11日、政府は半径20km圏外のうち、気象や地理条件によって放射線量の年間積算量が20ミリシーベルトを超える恐れがある地域を『計画的避難区域』に設定することを明らかにしました。そして、12日福島県農林水産部は、農用地の放射性物質の状況調査の結果を発表しました。調査を実施した7市町村の中で、避難指示半径20km圏内、屋内退避指示20km～30km圏内、屋内退避区域で、計画的避難区域から外れた区域を『緊急時避難準備区域』とすることも明らかにしています。該当する市町村は、福島県の広野町、楡葉町、川内村、田村市の一部、南相馬市の一部です。

また、5,000ベクレルを超え、稲の作付制限に向けて、国との調整を必要とする地域は無かったと発表しました。従いまして、指定される市町村・地域以外の県内各市町村・地域において、稲の作付が許可されました。

米麦日報によりますと、東北・関東6県(青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉)の津波による流失・冠水等の被害推定面積20,151ha全てが作付け不可能とり、また、原発事故による制限区域(15,818ha)と一切重複がないと仮定しますと、単純に合算して23年度産の作付け不可能田は3,500haを超えることとなります。生産量に換算しますと約18.5万トンに当たります。風評被害による需要減退が想定できますが、産地・銘柄にこだわる部分的な逼迫も考えられます。しかし、22年産の過剰米を考えれば全体需給に及ぼす影響は少ないでしょう。

風評被害対策、復興支援

風評被害は、東京大学大学院などで論文が出ていますが、ある事故、環境汚染・災害が大々的にメディアで報道されることによって、本来『安全』とされる農産物・食品・商品・土地を人々が危険視し、消費や観光を止めることによって引き起こされる経済的被害です。根本的には、『消費者心理』の問題です。

メディアや流通業者が風評被害を助長することがあってはなりません。消費者の『不安』が風評被害の根本心理であって、“念の為の行動”を引き起こします。流通業者が怖いのは消費者です。消費者を味方につけて、消費者の『不安』を取り除く正しい情報提供と、消費者目線で伝えるキャンペーンを続けることが必要です。情報も始まりだけでなく、経過(低減)と終わり(収束)の情報も伝えることです。当初の異常値が徐々に収束に向かっていることを伝える事も必要で、消費者の安心に繋がります。(次ページへ続く)

(前ページより続く)

1. 生産者は、今後益々トレサビリティが重要になります。生産日が3月11日以前か以後か、日々の作業記録(日付証明)、生産地(農地証明)、また、放射能検査証明などが販売業者、消費者に安心を与えることとなります。

2. 流通業者は、生産者が用意する証明書に基づき農産物の安全を棚に右写真のようなPOP(右写真ポップ: プライスカードの広告、食品スーパーオオゼキ/世田谷区松原本店)などで消費者に訴えます。一部量販店が被災産地支援キャンペーンをしていますが、安売りしては生産者の支援にはなりません。

3. 資材業者は、生産者と一体になって栽培指導し、産地証明や復興に役立つ正しい情報の提供と良き相談相手になることが重要です。



がんばろう東北! 産直販売会 ~ 5月6日まで有楽町交通会館にて開催中

4月12日有楽町交通会館(東京都)で開かれた産直販売会(右写真)は、大勢の人たちで賑わっていました。福島県を除く、被災地の青森県、岩手県、宮城県、秋田県、そして関東からは茨城県、千葉県の実産者、遠くは北海道の実産者、そして愛知県豊橋市の“え~じゃないか豊橋”のメンバーが売上げを義援金に役立てようと参加していました。風評被害の影響を受けている茨城県の生産者“斬新野菜わかとら”の早川翔吾さんに聞くと、「消費者の方は、皆さん普通に買ってくれます」と言う。青森市の生産者“農家応援隊”代表阿部高志さんも多くの生産者の農産物を預かって十数時間かけて販売会に参加していました。流通業者が扱ってくれないので自ら販売するしかないと言っています。今日は残念ながら福島県の実産者は来ていませんでしたが、先日の週末は多くの購入者であつという間に売り切れたそうです。日本人の優しさ、人情の厚さが本当にうれしくなると言っていました。



春からのメッセージ

“復興を祈念して” ~ 今 春が来て 君はきれいになった 去年より ずっと きれいになった ~
なごり雪 (歌手 イルカ) より

“いのちの筆から” 自分の花 名も草も 実をつける いのちいっぱい 自分の花を咲かせて
みつを (相田みつをを詩集) より

“アメリカの友人から” 桜は日本人のようだ、派手でなく、細やかで繊細で控えめで、皆が寄り添って美しさが何倍にもなる。そして毎年必ずきれいに咲く (鈴永啓子 元国際線CA) より



頑張れ東北! 支援の集い

東京飯田橋ライオンズクラブが、4月16日(土)午後2時~4時まで『頑張れ東北! 支援の集い』を開催します。会費は無料で、会場で義援金を募ります。どなたでも入場できますので、直接会場へお出かけ下さい。

お問い合わせは: 03-3542-5717

会場: 新宿区立牛込筆筒区民ホール

地下鉄大江戸線「牛込神楽坂駅」から0分

会費: 無料(会場で義援金を募らせて頂きます)

来賓: 中山弘子 新宿区長

講演: 三國清三さん(オテル・ドウ・ミクニ)

演奏: サニーサウンズ・ジャズオーケストラ

大震災以降、被災地以外の方も気分が下がり気味の中、気がつけば桜が満開になっていました。上を見上げて満開の桜をみた時、暗かった気分が少し晴れました。今こそ、上を向いて歩こう!

編集局長: 小田原次洋 アシスタント: 助川尚子

電話: 03-5275-5511/E-mail: macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp